

番号	事故発生日	事故の分類	事故状況	建物用途	被害者の年齢層	人数	症状	被害程度	再発防止対策の状況
1	5/8	体調不良等	ウォーターシュート乗車中に痙攣発作を発症し、失神した。	遊園地	13～19歳	1	痙攣発作・失神	入院不要	監視カメラの撮像範囲調整、モニタの増設
2	6/17	体調不良等	他の乗客の不安全行動によりウォーターシュートを緊急停止した際に、ラップバーをきつめに当てていたことから、避難誘導時に持病の腰痛を発症した。	遊園地	20～64歳	1	腰痛	入院不要	安全確保に伴う緊急停止は通常の手順どおりで、特に対策を講じることはない。
3	7/15	運行管理上の不注意による	スタッフがコースの途中で停まっていた滑走者に気づかず次の滑走者をスタートさせたことにより滑走者同士の衝突事故が発生した。	その他	13～19歳	2	頭頂部打撲・口内裂傷・足擦り傷	入院不要	・マニュアルに基づく安全確認の徹底を全従業員に指導。 ・「1名による確認」から「2名による確認」にシステム変更
4	8/1	その他・不明	ウォーターシュートに2人で乗り、スタート直後にお尻を打った。	遊園地	13～19歳	1	骨折	入院不要	原因不明のため、特に対策を講じることはない。
5	8/1	その他・不明	ウォーターライドをボートで滑走中、最初のカーブで転倒しボートから転落、うつ伏せ状態で着水プールまで滑走した。	遊園地	20～64歳	1	左肩脱臼	入院不要	注意喚起案内を徹底するよう従業員教育を実施。
6	8/18	その他・不明	コースター乗車中に力を入れていたため筋緊張を起こし、乗車後2時間経過した時点で頸部捻挫の症状を発症した。	遊園地	13～19歳	1	頸部捻挫	入院不要	従来より事故対策を講じている。 (乗車時の姿勢について注意喚起案内を実施)
7	8/21	その他・不明	ウォーターシュートで着水時に怖くなり横を向いたところ、うつ伏せ状態となり、走路に顔を打った。	遊園地	6～12歳	1	右目瞼裂傷	入院不要	・係員による注意喚起案内を徹底 ・注意喚起看板を増設
8	10/7	その他・不明	2人乗りスライダーを滑走中、2人の体重差が大きかったため、バランスを崩しコースから外れ分岐点部分に衝突した。	その他	20～64歳	2	左腰小骨骨折 左足腿打撲	3週間以上の入院	・滑走面の再点検を行い一部傾斜をつける等改修を行った。 ・2名滑走時に体重差による制限を設けた。 ・分岐点部分にクッション材を設置した。
9	10/13	器具などに衝突する	降車時、安全バーが上がる際に手を外側に向けて出していたため、安全バーと座席横のクッションに左腕が挟まった。	遊園地	6～12歳	1	左腕打撲	入院不要	係員による注意喚起案内を強化した。
10	11/25	その他・不明	女性が乗車時、座席間の滑り止め用突起物の上に着座し陰部を切傷した。	遊園地	20～64歳	1	陰部切傷・出血	入院不要	・着席時に注意喚起案内を強化した。 ・座席部の塗装を変更し、突起部の視認性を向上させた。
11	1/31	器具などに衝突する	男児が母親と一緒に乗車中、無理な姿勢で回転ハンドルを回そうとして手を滑らせたため、口を打撲し歯が欠けた。	遊園地	5歳以下	1	口打撲・乳歯破折	入院不要	クッション等を追加すると、回転時の巻き込み事故等を誘発し安全性を損ねる可能性があるため、特に対策を講じることはない。